

■ポイント:

- ① ハードを前面に打ち出すような従来計画から脱却し、ソフト・ハードの両面からキャンパスを「未来社会の共創拠点」へと転換させる。
- ② キャンパスづくりの視点では、学内における議論のみならず、本学の卒業生、地域の住民や企業、地方公共団体等の多様なステークホルダーの理解と共感を得ながら「市民に開かれ地域と一体となった『まち』のようなキャンパス」を目指していく。
- ③ 角間キャンパスのみならず、宝町・鶴間キャンパス、平和町地区等を視野に入れながら、本学の更なる発展に資する文理医融合による社会的インパクトを与える非連続的なイノベーションの世界的拠点の形成に向けて、一体的に取り組を進める。

その上で、マスタープランの実現に向けては、構成員一人ひとりが対外的には本学の代表である責任と自覚の下、未来志向で挑戦を続けていくことに加え、前例踏襲・自前主義から脱却し、多様なステークホルダーの理解と共感を得ながら、一体感をもって取り組む。

■基本方針: 世界に輝く真のグローバル大学を目指した、世界を牽引する研究拠点の形成と人類の普遍的な価値の創造をリードするグローバル人材の育成の基盤となる「キャンパスの質及び魅力の向上」

マスタープランの基本方針を踏まえた施設整備の具体的な方向性

- ① 「未来知」により金沢大学ブランド人材の育成を支える学生ファーストな環境
- ② 「総合知」により社会課題解決に資する実証研究機能を有する環境
- ③ グローバル化に対応した国際競争力のある環境
- ④ 多様な主体に開かれたダイバーシティ&インクルージョンを促進する環境
- ⑤ 多様なステークホルダーとともに賑わいと活力が創出される環境
- ⑥ 自然と調和し気候に配慮した持続可能でやすらぎや憩いを生み出す環境
- ⑦ 本学160年に渡る歴史と伝統と文化の薫るまち金沢の趣を生かした環境
- ⑧ 社会情勢の変化にも対応しうる可変性を持ったフレキシブルかつアクセシブルな環境
- ⑨ ライフサイクルコストを踏まえた環境

■コンセプト:

「知の創造のための多様な空間(居場所)」の構築

以下の観点で多様な空間(居場所)の構築を図る

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 1) 人材育成             | [方向性①]  |
| 2) 研究・イノベーション創出     | [方向性②⑧] |
| 3) グローバル化           | [方向性③]  |
| 4) ダイバーシティ&インクルージョン | [方向性④]  |
| 5) 交流・賑わい           | [方向性⑤]  |
| 6) やすらぎ・憩い          | [方向性⑥⑦] |

マスタープランの基本方針及びコンセプトを踏まえたキャンパスの整備方針

1) 人材育成	2) 研究・イノベーション創出	3) グローバル化	4) ダイバーシティ&インクルージョン	5) 交流・賑わい	6) やすらぎ・憩い
<p>ブランド人材の育成を支える学生ファーストな環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングスペース、産学共同による実践教育等、社会課題の解決に対応した人材育成に資する、多様な学び・教育に対応した空間</li> <li>・雑談スペース、多目的スペース等、学生同士の交流や滞在を促進させる、学生目線で来たい・居たいと思える空間</li> </ul>	<p>総合知による実証研究機能を有する環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンな研究室スペースや教員同士の雑談スペースのような多目的に利用可能で研究の活性化に資する空間</li> <li>・学内外の研究者が容易にアクセスでき、ベンチャーやスタートアップの活性化に資する、研究支援機能が充実した空間</li> </ul>	<p>国際競争力ある環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適性、機能性、基本的な生活が送れる環境の確保等、世界中の留学生や外国人研究者を惹きつける空間</li> <li>・オープンな交流スペース、日常の異文化交流を促進させる多様な文化に配慮した設え等、異文化・共生社会の理解に資する空間</li> </ul>	<p>多様な主体に開かれた環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢、国籍、障がいの有無、性別、性的指向、性自認その他の多様性を受け入れ、生活環境にも配慮した、属性・個性を尊重し合い活躍できる空間</li> <li>・アクセシビリティの向上、抜本的なバリアフリー対策を施すことで多様な主体に開かれた空間</li> </ul>	<p>賑わいと活力の創出に資する環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なコミュニティメンバーが交流し、共同学習や交流拠点となるパブリックな空間</li> <li>・地域交流イベントの開催、里山ゾーンやキャンパス内の散策ルートの整備、宿泊施設や飲食店の誘致等、休日の交流・賑わいを促進する空間</li> </ul>	<p>自然と調和し気候に配慮した持続可能な環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食・カフェスペース、リフレッシュスペース、屋外のパブリックスペース等、本学の利用者が空き時間にやすらぎ・憩える空間</li> <li>・角間キャンパスの自然・環境を生かした癒し・やすらぎの空間</li> </ul>

## ■キャンパスの在り方と機能:

### ○ 本学のキャンパスの在り方

・本学は、角間キャンパス、宝町・鶴間キャンパス、附属学校園の2つの地区、県内に5つの地区を有しており、それぞれが密接不可分であり、本学の更なる発展に資する文理医融合による社会的インパクトを与える非連続的なイノベーションの世界的拠点の形成に向けて、一体的に取り組を進める。

### ○ 角間キャンパスの機能

・角間キャンパスは、北地区、中地区、南地区及び里山ゾーンで構成されており、方針の設定にあたり、各地区における教育研究活動を整理している。



出典:北地区の風景(2022年撮影)



出典:中地区の風景(2022年撮影)



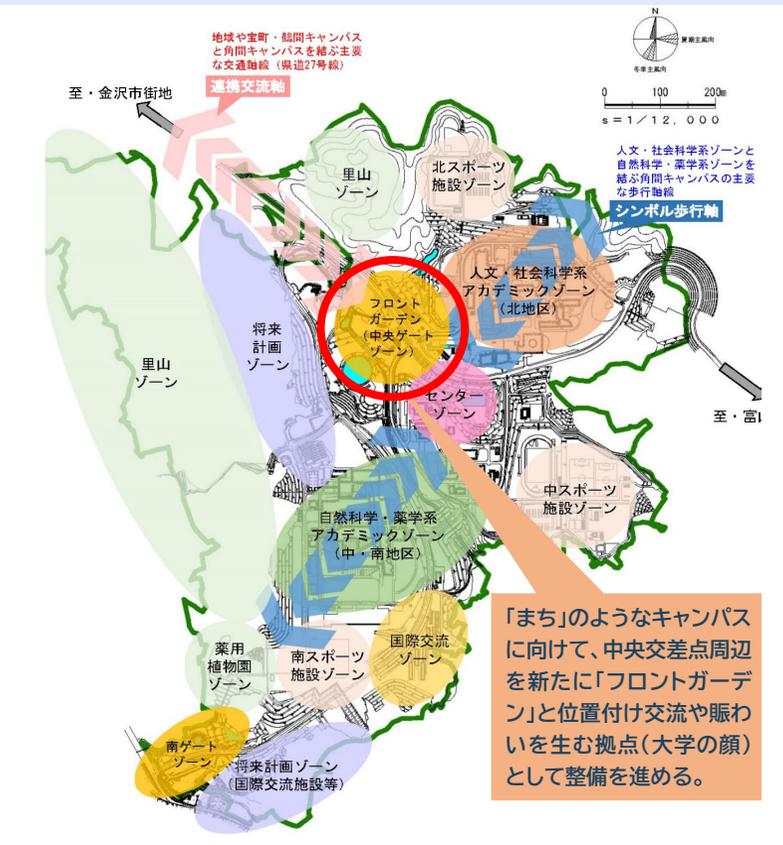
出典:南地区の風景(2022年撮影)

## ■現状の課題:

- ・角間キャンパス北・中地区は、平成元(1989)年の移転開始から34年が経過し、施設・設備の老朽化に加えて、施設の機能も陳腐化しており、教育研究の高度化・多機能化への対応が必要。
- ・山林を開発して設置されているため、様々な面でまちとの物理的なつながりが希薄である。
- ・マスタープランでは、このような背景を踏まえて、現状の課題として、教育、研究、安全、その他の4つの観点で整理し、基本方針・コンセプト・整備方針を定めている。

## ■ゾーニング計画:

- ・現在のゾーニングを活かしながら、キャンパス全体が有機的に連携して多様なステークホルダーと目指す「未来社会の共創拠点」に向けて、個別施設のみならず施設間や外部空間の相互連携にも配慮する。
- ・「キャンパスのどこを・誰と・どのように使うか」という視点で、広く地域に開かれたキャンパスとして質及び魅力の向上を図る。



## ■具体的な整備計画:

### ① 大規模改修の整備計画

- ・老朽化が進行している建物の大規模改修整備を最優先事項として計画する。
- ・北、中、南地区の個別建物のライフサイクルを踏まえた、大規模改修時期を整理している。

### ② フロントガーデンの整備計画

- ・「大学の顔」となる交流や賑わいを生み出し、共創を促進する空間を整備する。
  - ✓角間アクアテラス(親水空間)の整備
  - ✓ゲートハウスを中心としたやすらぎの空間整備
  - ✓大階段~ライブラリースクエアの空間整備
  - ✓構成員等が主体となって運営する店舗の整備
  - ✓民間企業等と連携した交流拠点等の整備

### ③ 新たな建物の整備計画

- ・既設スペースの有効活用等を最大限図ったうえでスペースが不足する場合に考えられる新たな建物の整備計画を検討する。

### ④ 環境負荷低減の整備計画

- ・カーボンニュートラル取組計画に基づき、キャンパスを実証研究の場として積極的に活用し、教育、研究・開発及び社会共創のソフト面の活動と一体となった取組を推進する。

### ⑤ 屋外環境の整備計画(緑地・里山・交通等)

- ・本学ならではの「歩きたくなる居心地の良い屋外空間」を整備し、交流・賑わい、やすらぎ・憩いを生み出す環境の充実を図る。
  - ✓緑地環境等の整備計画
  - ✓里山環境の整備計画
  - ✓交通環境等の整備計画
  - ✓屋外スポーツ施設環境の整備
  - ✓南ゲートゾーンの整備計画

## ■マスタープランの実現に向けた多様なステークホルダーとの連携:

### ○ 地域の住民・企業・地方公共団体等との連携

- ・多様なステークホルダーと未来の社会を共創し、互いに持続可能な形で発展していくという視座のもと、学都金沢の共創文化の発展に向けて、卒業生、地域の住民や企業、石川県や金沢市等との強固なパートナーシップを構築する。

### ○ マスタープランの実現に向けた構成員である学生・教職員一人ひとりが持つべき視点

- ・対外的には本学の代表である責任と自覚の下、未来志向で現状を捉え、常に課題を意識し、新たな発想と広範な視野を持って行動する。
- ・前例踏襲・自前主義(クローズドイノベーション)からの徹底的な脱却を意識する。
- ・多様なステークホルダーへの応援団を増やし、本学の活動に対する理解と共感を得るために、各方面へ積極的なアウトリーチ活動を実践する。